

2 思考・判断・表現する場面を位置づけた、学習の流れがわかりやすいページ構成

見開き2ページ=1時間の授業展開で学習の見通しを立てやすく、本文と資料のバランスを考えた紙面です。生徒が自ら学べるよう、資料を読み解く手がかりも示しています。

1 1時間の学習を見通す「導入」

生徒の興味・関心を高め、学習のきっかけとなる写真・地図などを導入に位置づけました。**キャラクターの言葉**や「LOOK!」は、導入資料をサポートします。

LOOK!
導入資料を解説することで、先生の授業を助け、生徒の自学自習にも役立ちます。

キャラクターの言葉
導入資料の見方のヒントになります。

2 学習課題？ 学習内容を自分事としてとらえる「学習課題」

タイトルには、学習内容についてイメージを膨らませる**主題**、学習事項を端的に示した**副題**を明示しました。**学習課題**では、この1時間の授業の見通しをわかりやすく示し、学習意欲を高めます。

資料番号 1, 2, 3...
本文と資料の関連を番号で示しています。本文を読みながら資料を結びつけることができ、学習が深まります。



2 衆議院議員選挙における選挙権の拡大

LOOK!
2016年の参議院議員選挙から、およそ240万人の18歳と19歳に、初めて選挙権が与えられました。少子高齢化が進む日本の「高齢者中心の選挙」への対処とともに、これからの時代をつくる若い世代の有権者を増やし、政治への関わりを進めようという政策です。

3 18歳選挙権と私たち ▶ これからの選挙制度

学習課題？ 選挙にはどのような課題があり、どのように解決が目ざされているのでしょうか。

2018年6月21日より、20歳以上から18歳以上に引き下げられました。

国名	選挙権*	被選挙権*	成人年齢
アメリカ	18歳	25歳	18~21歳
イギリス	18	18	18
フランス	18	18	18
韓国	19	25	19
日本	18	25	20 (2022年4月より18)
ブラジル	16	21	18

*下院(韓国は一院制)の年齢。日本は衆議院。(2019年1月現在)

3 各国の選挙権年齢、被選挙権年齢、成人年齢

	これまで	解禁後
選挙期間中の街頭演説会告知	選挙カーによる音声、電話など	SNS、ホームページなどで告知可能
動画配信	禁止	演説会の様子を配信できる
メールによる投票呼びかけ	禁止	候補者と政党に限定認められる

4 インターネット選挙の解禁で可能となった選挙運動

選挙権の拡大
公職選挙法が改正され、2016年から「18歳選挙権」が実現しました。選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げるとは、日本では1945年以降の選挙制度の大きな改正となります。アメリカ、イギリス、フランスをはじめ、世界のほとんどの国では、すでに選挙権が18歳以上に引き下げられていたが、今回の改正はその流れに沿うものです。憲法改正のための国民投票の投票権年齢が18歳以上になったことと合わせ、若い世代の政治参加への道が広がることになりました。

少子高齢化が進む中、若い世代の声を政治に反映させることは大きな課題です。若い世代の人たちが、今後どのように政治的な行動をとっていくのかは、日本の将来にとって重要な意味をもつこととなります。

選挙の課題
しかし、18歳選挙権が実現したにもかかわらず、若い世代の投票率は決して高くありません。10代が初めて参加した2016年の参議院議員選挙では、20代の投票率に比べれば高いものの、全体の投票率の54.7%には及びませんでした。また、全体的に見ても、投票率は長期的に低下しています。

4 読み解こう 思考・判断・表現する力を育む「読み解こう」

本文の流れに即し、資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組みることができ、**資料を活用する力**が身につきます。

読み解こう

- 一票の格差は、最大で何倍の差があるだろうか。
- 一票の格差があることは、どうして問題なのだろうか。
- このような格差を解消していくためには、どうしたら良いだろうか。【見×考】

*ここでは、3章の「見方・考え方」を活用して考える力の養成にも、役立つ内容になっています。

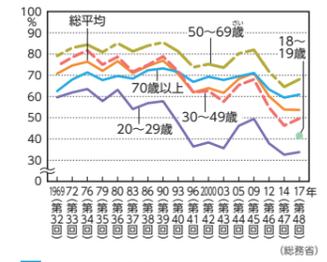
公民の怒 広がる期日前投票制度

近年、選挙での投票率を上げようと、各地でさまざまな試みが広がっています。その一つが、期日前投票制度の運用です。仕事や冠婚葬祭など、一定の理由で投票日に投票することができない場合、投票日の前日までの間に投票ができるという制度です。大型のショッピングモールや鉄道の駅など、人が多く集まる場所に投票所が置かれることが多いですが、有権者となった学生が授業や講義の合間にも投票できるよう、高校や大学の構内に投票所を設けるケースも増えています。また、高齢化や過疎化が進む地域では、投票所まで行くことが難しい有権者のために、ワゴン車による「移動期日前投票所」を導入する試みも始まっています。



衆議院議員選挙の投票率でも、同じような結果が示されています。投票率が低下するのは、政治への関心がもてないことや、関心があっても投票したいと思う候補者や政党が見つからないことなど、さまざまな理由があります。しかし、投票を棄権することは、自らの大切な権利を放棄するばかりでなく、選挙や議会の決定への信頼性を低下させることにもつながる危険性があります。

一票の格差の問題
また、選挙区によって一票の価値が異なることも、選挙制度の問題点として指摘されています。選挙が国民の意見を正しく反映するためには、一票の価値が平等であることが大切です。ところが現在の日本では、議員一人当たりの有権者数に、およそ2倍の差がある選挙区が存在します。このような「一票の格差」は、解消していく必要があります。一方で、人口が減少する地域の声をどのように国政に反映させるかといった課題も残っています。一人でも多くの国民の声を政治に反映させるために、より良いしくみづくりの模索が続いています。



5 衆議院議員選挙の年齢別投票率の推移

選挙区	有権者数
東京13区	474118人
東京10区	473597人
東京8区	473284人
鳥取2区	240692人
宮城4区	240629人
鳥取1区	239097人

(2017年9月1日現在 総務省)

6 衆議院議員一人当たりの有権者数

読み解こう

- 一票の格差は、最大で何倍の差があるだろうか。
- 一票の格差があることは、どうして問題なのだろうか。
- このような格差を解消していくためには、どうしたら良いだろうか。【見×考】

世界には、国民に対して投票を法律で義務づけている国もあります。例えば、オーストラリアでは、正当な理由もなく投票を棄権すると、罰金として約2000円を支払わなくてはなりません。

確認! 投票年齢が20歳から18歳に引き下げられたことには、どのような意味があるか考えよう。

表現! 投票率を上げるにはどうしたらよいか、他の国の例を参考に考え、意見を交換しよう。【見×考】

5 本時の振り返りとして、②の学習課題と対応させた「確認」と「表現」

この時間で学習したことを基に、「確認」では基礎的な事項の確認と整理、「表現」では社会的現象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に振り返りながらまとめることができ、学習が深まります。

確認!

本時の学習の中で、重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄をしっかりとおさえます。

表現!

本時の学習を振り返り、言葉で表現したり、対話したりすることで深い学びにつなげます。

3 読んでわかる、授業しやすい「本文」

読みやすく、わかりやすい文章で、生徒の社会的現象への理解を深めます。生徒が「わかる」記述は、授業中はもちろん、自ら学ぼうとする場面でも、基礎・基本の定着にも役立ちます。

6 学習内容と関連する「SDGsの表示」

SDGs 11 持続可能な都市 / 16 平和

7 ページ番号の横に示した「章・学習パート(節)の表示」

いま、どの章の中のどの節の学習をしているのか、学習の現在地を示します。

3 「見方・考え方」を働かせた 学びや資料の活用を支援する学習コーナー

公民学習における現代社会の「見方・考え方」を働かせた学びが、各章の学習内容と連動しながら養えます。また、本時の学習を出発点とし、生徒の興味・関心が広がり、学習意欲が高まる各種のコラムを設けました。

公民の学習で働かせる「見方・考え方」

各章で意識させたい大事な視点となる「見方・考え方」を、それぞれの導入ページで紹介しています。本時のなかでは、その「見方・考え方」を活用して考えさせたい問いかけに、「見×考マーク見×考」をつけています。さらに、各章のまとめと表現のページでは、章全体の学習を振り返ってまとめ、章全体の問いについて考える際の視点に用います。繰り返し活用することで、深い思考力を養えます。

good

学習の見通し 「第1章 私たちの暮らしと現代社会」

第1章は三つの節で構成されています。「1節：私たちが生きる現代社会」では、「私たちは、今、どのような時代や社会に生きているのだろうか」をテーマに学習を進めます。「2節：現代につながる伝統と文化」では、「私たちの暮らしのなかで、伝統や文化はどのように受け継がれているのだろうか」をテーマに学習を進めます。「3節：私たちがつくるこれからの社会」では、「ともによりよい社会をつくるために、私たちはどのように社会のルールを考えればよいのだろうか」をテーマに学習を進めます。



第1章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正

p.18下

第2章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
個人の尊重 ▶ 法の支配 ▶ 民主主義

第4章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
分業と交換 ▶ 希少性

第3章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
個人の尊重と法の支配 ▶ 民主主義

第5章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
分業と交換 ▶ 希少性

第6章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
協調 ▶ 持続可能性

第5章の学習の「見方・考え方」見×考
対立と合意 ▶ 効率と公正
分業と交換 ▶ 希少性

公民の技 「公民の技」

個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身につけさせたい技能や表現力など、まさに“技”を磨くコーナーです。身につけたことが、社会のなかで活用できるようになります。必要な場面で無理なく全10編を設けています。

公民の技

死刑制度について考えよう

他人の生命(生きる権利)を奪った罪などに対する最も重い刑罰として、日本では「死刑」の制度があります。一方で、憲法第36条で禁止された残虐な刑罰に当たらないかという議論や、国際社会では死刑を廃止する国が増えていることもあり、死刑制度を廃止すべきかという意見があります。

年	死刑制度を廃止した国(個数)	死刑制度を維持している国(個数)
1970	0	100
1980	10	90
1990	20	80
2000	30	70
2010	40	60
2014	50	50

公民の技

需要と供給曲線について考えよう

右のグラフでは、りんご1個の価格、横軸が取り引きされるりんごの個数を示しています。グラフを見ながら、以下の問いに答えてみましょう。

●りんごが1個70円だったら、消費者はいくつほしいと考えるだろうか。
●そのとき八百屋さんは、価格が高い・安いので、たくさん(売りたい・売らたくない)と思う。(※どちらか一方に○印をつけよう。)
●その後、価格と売れる量はどのように動いていくだろうか。図から読み取ってみよう。

good

p.149

表現! 子どもたちが安心して育ち、高齢者が幸せに暮らしていける社会を築くためにはどのようなことが必要か、意見を交換し合ってみよう。見×考

p.19

第1章全体のテーマについて、次の問いに答えよう。見×考

第1章「私たちの暮らしと現代社会」全体のテーマ
「私たちが生きている現代社会とは、どのような社会なのだろうか。」

- ①現代社会の特徴について、グローバル化・情報化・少子高齢化の三つのキーワードから、それぞれ説明しよう。
- ②「第1章の学習のはじめに」で行った課題「修学旅行のクラス別行動のコース決め」(p.13)について、改めて第1章で学んだ学習をふまえて、吹き出しに言葉を入れてみよう。その際、「効率と公正」の視点をふまえて考えよう。
- ③私たちが生きている現代社会の「これから」を考えたとき、どのようなことが重要になってくると考えられるか、右の写真を参考にしながら、自分の意見をまとめよう。



p.36上

p.93

公民の窓 インターネットの発達と民主政治

これまで私たちは、マスメディアによって選択され、一方的に発信される情報を受け取ることがほとんどでした。しかし現在はインターネットの発達により、より多くの情報を自ら検索して収集できるとともに、自分の意見や情報を広く発信することも可能になりました。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などを通じて人々が意見を交わし合うことで、より積極的に人々が政治に参加する可能性が開かれています。

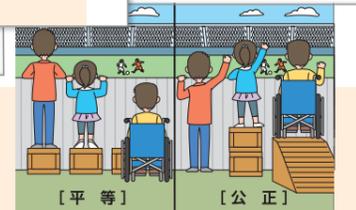


トランプ大統領とSNS

2017年に就任したアメリカのトランプ大統領は、大統領選挙の際に就任後も、自らSNSを使った情報発信を積極的に行い、人や社会にさまざまな影響を与えました。

公民の窓 平等であること、公正であること

右のイラストを見てみましょう。誰もが等しく扱われることの大切さから、同じように台が用意されましたが、この場合の問題は解決しません。まず公正さの観点から、それぞれの人の違いに応じた配慮が行き届いて、初めて平等に観戦を楽しむ機会が得られたのです。



台が平等に用意された場合(左)、実態に応じて用意された場合(右)

p.177

公民の窓 「公民の窓」

生徒の興味・関心を喚起する、特色あるコラムです。本文内容からさらに一歩進んで学びを掘り下げ、視点を変えたり視野を広げたりできる内容で、多面的・多角的な見方が身につきます。全38編で、本編を支えます。

〈公民の窓・ラインナップ〉

公民の窓	学習から興味や関心を広げていくコラムです。				
受け継がれる京都の景観	27	各国の二院制	97	ゆりかごから墓場まで	173
じゃんけんは公平か	29	小さな政府と大きな政府	103	平等であること、公正であること	177
外国人と参政権、公務員への採用	47	中学生の人権と裁判	105	ガムの撤去でよみがえった	
ヘイトスピーチ	55	冤罪と再審	107	河川環境	181
捜査技術の進歩と人権	57	公判前整理手続の役割	109	放置された人工林	183
広がる「子ども食堂」	59	もう一つの権力分立	115	森・海・川の再生へ	185
B型肝炎訴訟	63	地域おこしと地方財政	119	国旗と国歌の歴史	195
コスタリカの憲法にみる平和条項	75	貨幣・お金のはたらき	131	「RCEP」の描く未来	203
ヒトラーの独裁政権	85	PL法をめぐる	133	核兵器禁止条約と日本	207
過半数を尊重すること	87	1円でできる株式会社	141	難民を祖国に	209
広がる期日前投票制度	89	水道事業の民営化	151	エルサレムの共存と対立	211
利益団体の役割	91	財政投融资	161	「児童労働」とはなんだろう	217
インターネットの発達と民主政治	93	豊かさやGDP	163	核のゴミはどこへ	219

p.5

p.51

高校生のCEO

山内奏人さんは、中学生のころにいくつかのベンチャー企業に携った経験を生かし、高校生になった2016年に、友人と自分の会社を立ち上げてそのCEO(最高経営責任者)に就任しました。そして、消費者と企業を結びつけるアプリの開発に成功しました。このアプリのしくみは、買い物の際にもらうレシートの購入記録を買い取り、それを必要とする企業に販売することで利益を得るといふものです。

小学生のころからプログラミングに興味をもち、独学で勉強を続けてきたという山内さん。さらに大きな目標に向けて、会社とともに、成長を続けています。

「クリップ」

学習内容と関連する人々の姿や営みにスポットを当てた、コラム全9編です。学んだことをよりいっそう身近に感じ、具体的にとらえることができます。

p.139



6 視覚障がい者誘導用ブロック(点字ブロック)

写真を見て、気づいたことをあげてみよう。

「Q」

資料への問いかけや活動を促す「Q」も随所に設け、読み取りの視点が養えます。